

61年度地場産業振興対策における開発課題である デザイン研究及び指導事例について

田原 健次

はじめに

61年度の木竹製品（プロダクト及びクラフト部門）のデザイン開発研究に関しては次の諸件を課題として取組みを図ったものである。

1. 県産材の利用促進

- 1-1 国産針葉樹材時代の到来に備える製品化について：多品種製品開発のデザインプロセス（資料）を作成し関係業界の提供を図る。
- 1-2 特産材の高度利用化について：離島産材、孟宇竹材の製品化について、モックアップ等により業界へ具体的見本提示をはかる。

2. 地域産業の振興

地域特性を活した新製品開発を進め産地活性化に寄与する方途を考慮する。

3. 業界における新製品開発促進

- 3-1 市場ニーズに基づいたデザイン開発及び技術指導強化
- 3-2 デザイン開発講習会（又は、研究会等）開催
- 3-3 デザイン開発関連の情報資料提供

1. 木製品プロダクト部門

1-1 テーマ：マイコン等OA機品の専用エリア用具の開発研究

1-2 目的

1-2-1 オフィス等におけるパーソナルスペースの効率的レイアウト構成を支援するための専用家具の開発研究

1-2-2 総合的機能性研究

1-3 デザインコンセプト

1-3-1 Type（次の4種類のデザイン展開を試みた。）

(1) オフィス用、一般的汎用タイプ

(2) オフィス用、オープンスペース用タイプ

(3) オフィス用、カジュアル用タイプ

(4) オフィス用、レディス用ファッションタイプ

1-3-2 デザイン（設定図面及びレンダ）……右図及び次頁図

1-3-3 利用珠材

(1) ベース：針葉樹材及び同材の積層集成材利用

(1) 主要部材（枠、緑等）：同上材ソリッド利用

(3) その他：プラスチック系樹脂板利用

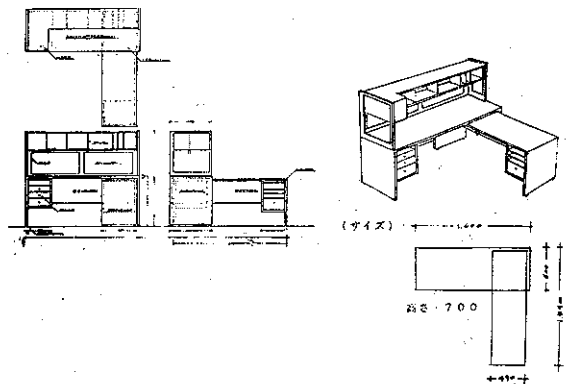
1-3-4 カラーコンデイショニング

(1) カラーデザイン：疲労軽減を目的とする効果的オフィス用々具の演出デザイン

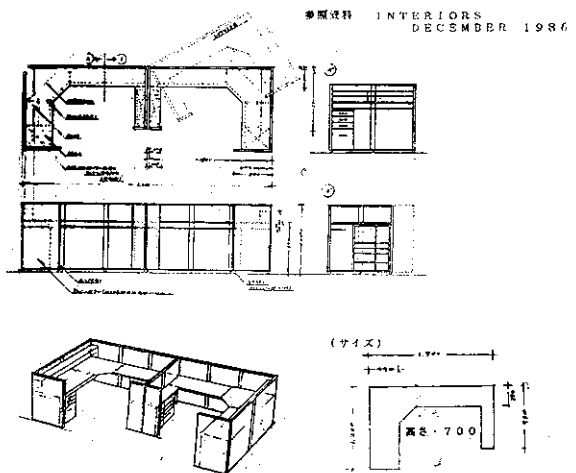
(2) ベース：ウレタン系塗料仕上げ

(3) その他各色：プラスチック系樹脂板

(1) オフィス用、一般的汎用タイプ

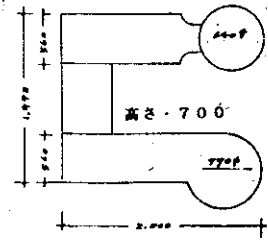
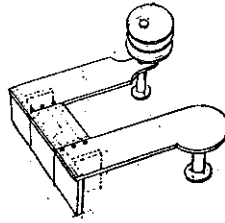
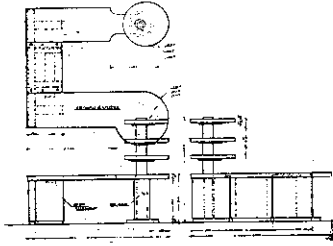


(2) オフィス用、オープンスペース用タイプ



(3) オフィス用、カジュアル用タイプ

(サイズ)

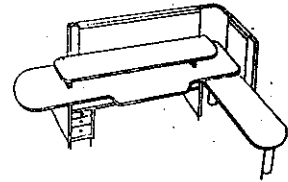
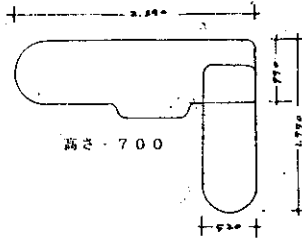
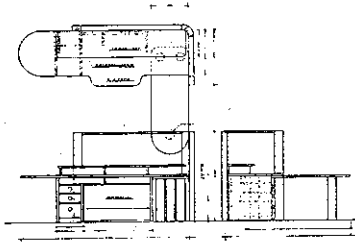


(4) オフィス用、レディス用ファッションタイプ

(サイズ)

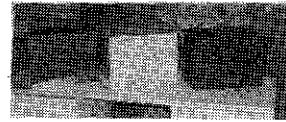
参照資料

INTERIORS
JANUARY 1987



1-4 成果及び考察

当該製品の市場性は今後益々有望と思われるがこのような状況下に後発ではあるが当県では時宜を得たものとして一定の評価を得ており、業界振興対策の一環として当デザインをベースに開発を促進させたいと考える。



2. 竹製品プロダクト部門

2-1 テーマ：竹材の高度利用化に関する多角的製品開発研究

2-2 目的：工業的生産性を前提とする孟宗竹積層集成材を利用した製品の開発適用性把握

2-3 概要

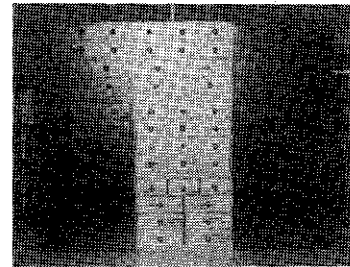
2-3-1 年度別開発研究に関して

58~60年度…テーブル用品等を中心に工業生産手段による開発研究

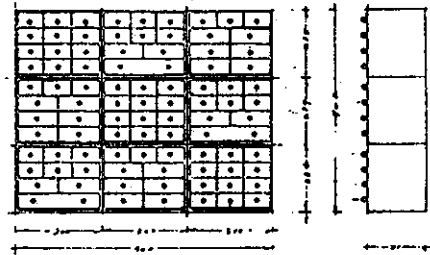
(58~59 試作実績・・・雑貨品等16種28点)

2-3-2 今年度開発研究方針及び実績について

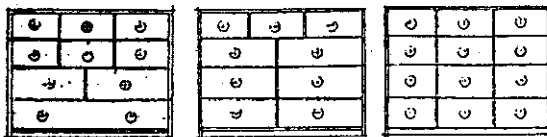
当加工用材による工業的製品開発を研究の「核」として小型家具等の開発に取り組んでいるもので全国的にも新しい分野としてユニークな対象であると思われる。58年度以降継続的にデザイン開発に着手しているが今年度はその範囲を拡大しサブテーマに「ユニットタイプの小箱セット」を設定し試作段階まで進めたものである。



2-4 設計図面（3タイプ）



セット（ユニット）例



Type 1

Type 2

Type 3

2-5 成果及び考察

竹製品の本格的工業化対策（機器生産技術導入）を目的に、これまで4ヶ年間の継続研究を通して、一定の成果をあげ啓蒙指導作品として公開展示、発表等を行なって来たが業界でも特に原産地宮之城地区において地域産業の活性化という観点から、これら当場の開発指向に呼応する形で設備拡充等の傾向が顕著である。

今回の試作ではこれらに鑑み上図3種9点を、又、着色数も新に3種程を試みたが木製品に比較し高度な技術を要する部分が多いので来年度以降のテーマとして更に企業との連携研究を継続し地場産業振興に役立てて行きたいと考える。

なお、当成果は次年度に技術移転を考慮しているが、すでに60年度…企業一技術進対策補助事業における対象企業でも併行して、モデル製作まで終えるなど取組みも具体化しつつある。

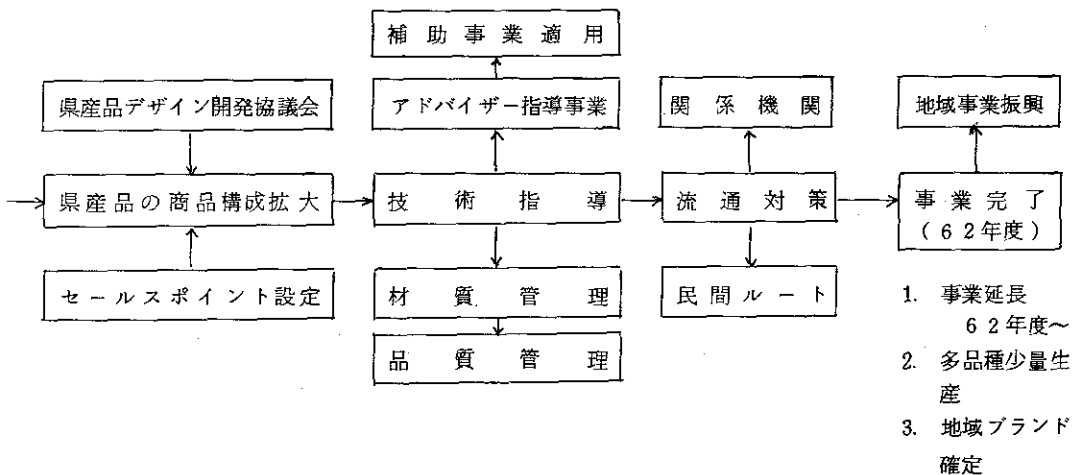
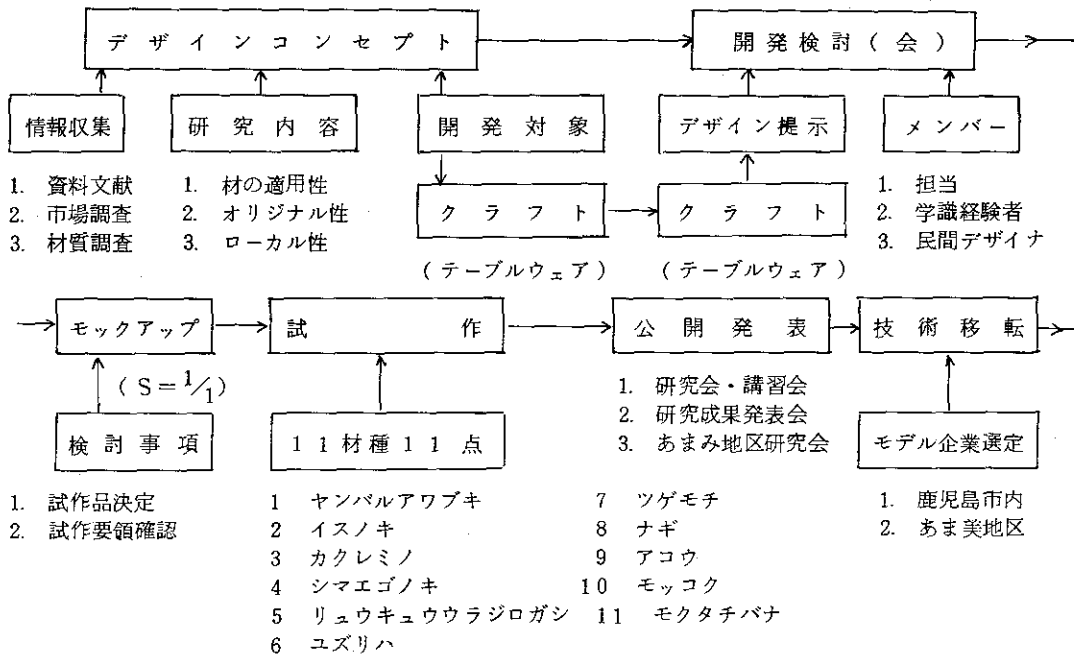
3. 木製品クラフト部門

3-1 テーマ：工芸品開発における離島産材等の適用性に関する研究（継続）

3-2 目的：主として「あま美産材」を対象にそのオリジナル性を積極的に、且つ有効的に活用し地域産業の振興に寄与する。

3-3 概要

3-3-1 取組みに関して



3-3-2 適用性に関する判断資料

材種	方言	比重	乾燥時間		加工性		塗装		物性 逆り	利用性 (加工料)	入手性	含水率
			天乾	人乾	旋削性	研マ性	着色性	付着性				
ヤンバルアワブキ	テサン		720	360	難	多小難	良	良	良	不良	容易	※61.3
イスノキ	ユス	0.90	"	"	良	良	"	"	"	良	"	28.1
カクレミノ	ヨゴロ	0.52	"	"	多小難	"	"	"	"	"	"	63.0
シマエゴノキ	ロクロ	0.66	"	"	良	"	"	"	"	"	"	58.3
リュウキュウ	ウラジロガン	0.98	"	"	"	"	不良	良	"	"	"	46.8
ユズリハ	ユズル		"	"	"	特に良	"	"	"	"	"	27.1
ツゲモチ	ムツナラビ	0.85	"	"	"	"	"	特に良	特に良	"	"	45.1
ナギナギ	ナギ	0.85	"	"	"	良	不良	"	良	不良	"	29.0
アコウ	コホギ		"	"	"	"	"	"	"	"	"	18.9
モッコク	モッコク	0.80	"	"	"	"	"	特に良	特に良	"	"	14.2
モクダチバナ	アクチ		"	"	多小難	"	"	"	良	"	"	

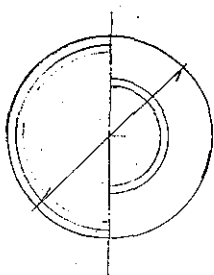
(木取後) (荒ぐり) (200以下)
30日 後15日)

※適用性に関する最終判断については、これからの経時変化を見守る。

その他は含水率計で測定

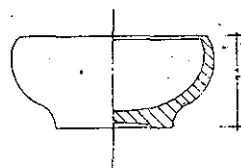
◎ 参照資料 (当場、山之内研究員資料より)

3-4 デザイン (同一形状、11種)

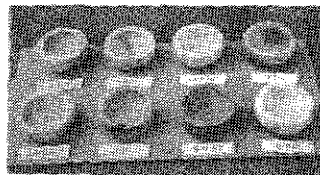


テーブルウェア (小鉢)

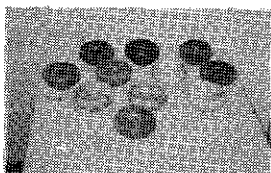
$$s = 1/1 \text{ mm}$$



3-5 試作用材 (見本)



3-6 試作品 (同一形状、11種)



「あま美産材」を取り上げその材特性、加工性及び水取り、塗装性等について同一形状 (60~61年度) での「器」をとおして製品化に伴う諸件の把握を行っているものである。

なお、62年度からは実用化対策に取組み、あま美産地等においても結果発表や技術移転開始を計画しており地域工芸産業の活性化を考慮し最終目標である、あま美における「うし工芸品」の産地構成に向けて一段の基盤強化に努めたいと考える。

3-7 成果及び考察

継続研究 (60~62年度) 中のものであるが今年度は